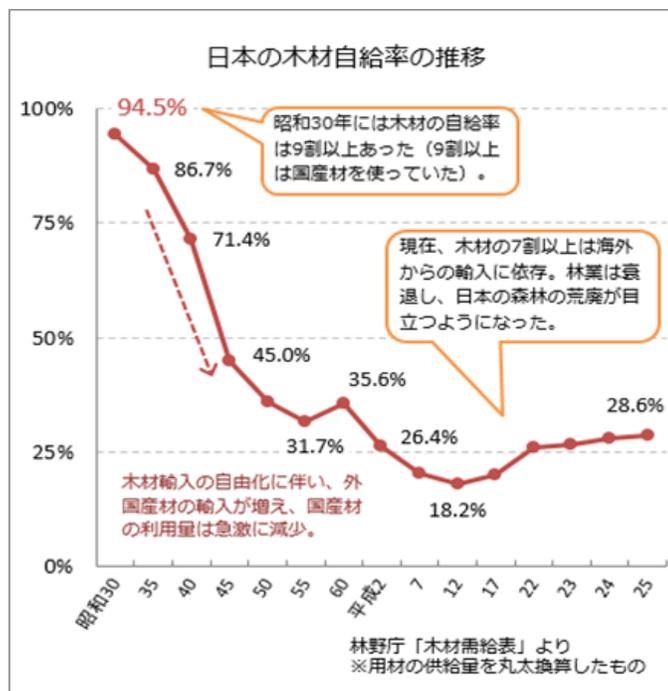


# 冒険の森とは(対林業関係者向け)

## 【日本の森林の現状と課題】

日本は、国土の7割を森林が占めており、世界に類を見ない1,000万ヘクタールもの人工林を持つ国である。また、天然資源の乏しい日本であるが、木材だけが唯一需給バランスが保っている資源である。

しかし、昭和39年の輸入木材の自由化に伴い、コスト面で外材との国際競争に負けてしまったからは、国内における木材自給率は下がり、現在では(平成25年度)28.6%まで落ち込んでいる。これに伴い、日本の林業経営も厳しい状況を強いられることになり、現在、放置林(※手入れ、間伐がなされていない荒廃した森林)が増え、日本で唯一100%自給できる天然資源を有効活用できておらず、従来の1次産業的な森林の活用方法のみでは、地域の雇用創出と森林の荒廃に歯止めをかけることができないのが現状である。



## 【課題解決と本事業の取組】

そこで、本事業においては、放置林に「自然共生型アウトドアパーク」を建設、運営することによって、森林を有効活用する。本事業における取組は、森林を従来の1次産業的な利用方法だけではなく、3次産業的な利用価値を創出することで、新たな事業を創出するものであり、本事業を遂行することで、森林の新たな収益モデルと地域雇用の創出が可能となる。

また、森林の資産価値として、木材生産という側面以外にも、治山治水、水源涵養と、土砂災害の防止、地球温暖化の防止、生物多様性の保全など、様々な役割(森林の公益的機能)もあり、すべての森林が木材生産に適しているわけではない。

本事業は、木材生産に適していない森林においてもサービス提供することが可能であるため、幅広く森林を有効活用できるサービスである。